

桜島 黒神川

2024/08/06 00:37:24

桜島の噴火災害と砂防管理の取り組み 鹿児島県『桜島』

桜島



スマートフォンの「QRコード」アプリで、QRコードを読み取っていただくと、桜島の噴火と土石流の映像（記録）をご覧になれます。

爆発

【2024年8月6日0時37分
黒神川右岸CCTVより】

【令和6年8月6日】
噴煙は火口から約3,000m上昇、噴石が4合目（南岳山頂火口より1,300～1,700m）まで飛散。

桜島の噴火災害

X（旧ツイッター）
で最近の噴火映像が
ご覧になれます。



噴火災害



【大正大噴火】大正3年1月
島外避難が遅れ、多数が死傷、この時桜島と大隅半島が溶岩で地続きとなる。



【昭和61年11月23日】
噴火口より約3km離れたホテルに直径約2mの噴石が落下、屋根から1階の床を貫通。

噴火活動のようす



鹿児島県垂水市海湯

【令和6年2月14日】
噴煙は火口から約5,000m上昇、噴石が5合目（南岳山頂火口より1,000～1,300m）まで飛散。

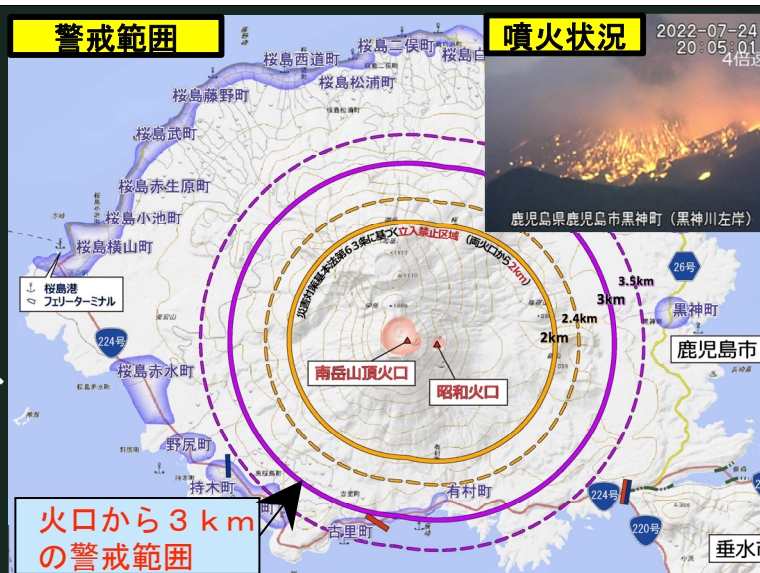


鹿児島県垂水市海湯

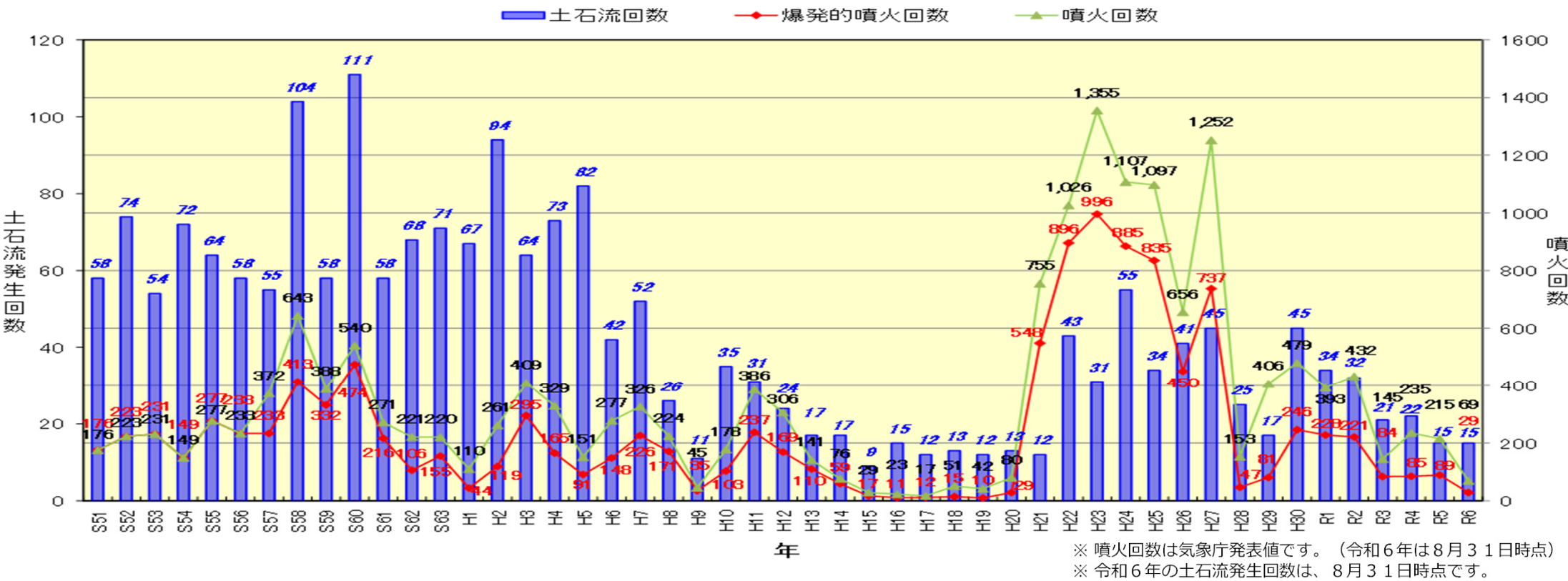
【令和6年7月29日】
噴煙は火口から約4,400m上昇、噴石が4合目（南岳山頂火口より1,300～1,700m）まで飛散。

主な噴火被害	1471～76年（文明3～8）	火山爆発、溶岩流出、人畜死傷・家屋埋没多数。	1995年（平成7）	火山灰により高速道路通行止め。
	1779年（安永8）	火山爆発、溶岩流出、海底噴火・噴火津波、新島燃島生成、死者153人、家屋耕地被害。	2000年（平成12）	火山灰による交通混乱。噴石による被害。
	1914年（大正3）	火山爆発、溶岩流出、死者58人。	2006年（平成18）	昭和火口で58年ぶりに噴火。立入禁止区域の範囲拡大。
	1946年（昭和21）	火山爆発、溶岩流出、死者1人。	2007年（平成19）	気象庁は噴火警戒レベルの運用を開始。桜島の噴火警戒レベル2（火口周辺規制）。
	1955年（昭和30）	火山爆発、死者1人。	2008年（平成20）	噴火警戒レベル2→3に引き上げ。以降、噴火警戒レベルは3と2を繰り返す。
	1972年（昭和47）	古里町に巨大噴石落下。	2015年（平成27）	8月15日噴火警戒レベル3→4に引き上げ。9月1日噴火警戒レベル4→3、11月25日3→2に引き下げ。
	1986年（昭和61）	古里町のホテルに直径2mの噴石落下。	2016年（平成28）	2月5日噴火警戒レベル2→3に引き上げ。

<令和4年7月24日噴火警戒レベル3→5引き上げ>
○桜島の南岳山頂火口で令和4年7月24日に爆発が発生し、大きな噴石が火口から約2.5kmまで達したため、噴火警戒レベルを5に引き上げ。
○国土交通省では、噴火に伴う降灰後土石流等への迅速な対応のため、CCTVカメラによる監視や自動降灰量計による降灰状況の把握等を実施。
○令和4年7月25日、鹿児島大学 地頭蘭教授・鹿児島県・気象台・九州地整による降灰状況のヘリ調査を実施。
○降灰が想定された桜島東側の斜面や垂水山地の緑は比較的鮮明に見えており、今回の噴火に伴う降灰では、少ない雨で土石流が発生する可能性は低いことを確認。
○令和4年7月27日20時、桜島から2kmを超える範囲に影響を及ぼす噴火の可能性が低くなったため、噴火警戒レベルを3に引き下げ。



『土石流発生と噴火回数の相関』



砂防管理

桜島では、平成20年度より直轄砂防管理事業において土石流の頻発する野尻川・黒神川の除石等を実施し、適切な砂防設備の機能維持を図っています。



無人化施工

大規模な噴火などの立ち入り禁止区域や危険箇所での施工や復旧活動のため、無人化施工の試験施工や緊急工事を実施しています。

